

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
運動生理学 Exercise Physiology for dietician		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(栄養士資格必修科目)	栄養士養成課程の学生のための「運動生理学」
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
解剖学、生理学				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
栄養士資格必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
穂積 元	福祉棟2階	月曜から木曜日午前（授業時間は除く）		授業中に指示します
授業の概要				
近年急増する生活習慣病患者における食事療法と運動療法の併用が有用であることが認められている。そこで、本講義では運動療法に用いられる、いわゆる「健康運動」について学ぶ。また、従来の栄養指導における摂取エネルギーのみの指導から脱却し、エネルギー収支に重点をおいた栄養指導法の必要性を考える。				
授業の目標				
①健康と運動の関係を考慮しながら、身体運動のしくみを理解し、また、「健康運動」における運動効果についても説明できるようにする。②栄養と運動の関係についてもエネルギー収支、すなわち摂取エネルギーと消費エネルギーの差を考慮した考え方ができるようにする。③運動療法の手順や適応基準等を習得し、患者状態の把握に役立てることができるようにする。				
授業の方法				
講義形式で実施し、関連科目の基礎知識については無作為に口頭試問を実施する。				
学習の成果（学習成果）				
①運動のしくみや「健康運動」の運動効果を図示し説明できる。②食生活からの摂取エネルギーと日常生活での労作や運動による消費エネルギーの収支を算出し、その結果から食事療法や運動療法の処方を作成して対象者に指導ができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス（成績評価方法、学習方法）			
第2回目	運動器の概念とその構造			
第3回目	身体運動のしくみ（骨格筋収縮の神経系調節、筋フィラメントの滑走のしくみ）			
第4回目	エネルギー供給機構1（クレアチンリン酸機構、乳酸性機構）			
第5回目	エネルギー供給機構2（有酸素性機構）、小テスト1（ここまでの授業内容から出題）			
第6回目	身体運動と呼吸・循環器系のはたらき（酸素負債、運動時の血流分布変化）			

第7回目	運動に伴う栄養代謝変化 *運動による身体機能変化をクイズ形式でまとめる	
第8回目	運動とエネルギー代謝 1 (エネルギー代謝の概念、エネルギー消費量)	
第9回目	運動とエネルギー代謝 2 (エネルギー代謝量の各種指標等)	
第10回目	いわゆる「健康運動」による運動効果、小テスト 2 (小テスト1以外でここまでの授業内容から出題)	
第11回目	運動療法の概要	
第12回目	運動療法各論 1 (エネルギー収支を利用した体重管理法)	
第13回目	運動療法各論 2 (糖尿病患者における運動療法の実際、運動可否基準、運動効果)	
第14回目	運動療法各論 3 (その他の生活習慣病における運動療法の実際)	
第15回目	運動療法4、なお小テスト 3 (小テスト 1 と 2 以外の範囲より出題)は16回目に実施する。	
事前・事後学習	予習として各授業に関する生理学と解剖学の知識を確認しておくこと。復習としては、図表を利用して各事項を説明できるようにノートを整理すること。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	最高評価は授業に集中し、必要なことはきちんとノートにとる。また、分かりにくい点があれば積極的に質問する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	30%	記述式問題各2問、計4問(自筆ノート持ち込み可)
試験	30%	自筆ノート持ち込みのまとめの試験で記述式の問題とする。第16回目に実施する。最高得点は問題に対し、的確かつまとまった回答になっていること。
発表内容 (態度含む)		
その他	10%	授業中に関連した基礎知識に関する口頭試問に対して、しっかり回答することができる。
教科書と参考図書		
教科書：「やさしい運動生理学」 杉 晴夫編著 (南江堂) 参考資料は、適時、配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験(職種：臨床検査技師、職歴：通算15年)、講義中の飲食、携帯電話の使用は厳禁とする。		